

日本歯周病学会 第105回 歯科衛生士教育講演会 報告

1. 研修会名：日本歯周病学会第105回歯科衛生士教育講演会（日本歯科衛生士会第5次生涯研修）
2. 主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会（歯科衛生士関連委員会）
3. 協力：一般社団法人 日本歯科衛生士会（奈良県歯科衛生士会）
4. 日時：2024年7月28日（日）9:30～14:15
5. 場所：
 - ①Web 講義（Zoom ミーティング）
 - ②奈良県コンベンションセンター 1階 101 会議室および 102 会議室（Web 中継）
所在地：奈良市三条大路1丁目691-1
6. 演題：1)「私の考える歯周病患者への対応～知覚過敏・根面カリエスの予防・SPT 編～」
2)「歯周病予防で歯と身体の健康を守ろう！～歯周病と全身疾患の関わり～」
7. 講師：1) 大八木 孝昌（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）
2) 高橋 由希子（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）
8. 日本歯周病学会認定歯科衛生士によるケースプレゼンテーション
 - 1) 座長：鎌田 征之（日本歯周病学会 歯科衛生士関連委員会 委員）
 - 2) 上田佳奈（日本歯周病学会認定歯科衛生士，奈良県歯科衛生士会所属）
「喫煙を伴う広汎型慢性歯周炎の一症例」
9. 研修単位：①，②両方に該当する場合は，それぞれの単位取得が可能
 - ①日本歯周病学会会員の場合
 - ・認定歯科衛生士制度における申請時の教育研修単位（8 単位）
 - ・更新時の生涯研修単位（10 単位）
 - ②日本歯科衛生士会会員，会員外の場合
 - ・第5次生涯研修制度に基づく専門研修単位（歯周治療の基本技術）
IV. SPT メンテナンスに関する知識と技術/C 知覚過敏・根面カリエスの予防 2 単位
I. 歯周治療の基礎/E 全身疾患、生活習慣病に関する知識 2 単位

10. 教育講演会の流れ（図1）

はじめに，奈良県歯科衛生士会の米田衣代会長より挨拶があり，続いて大八木委員より「私の考える歯周病患者への対応～知覚過敏・根面カリエスの予防・SPT 編～」の講演が行われた。



図1 現地での受講者の様子

日本歯周病学会認定歯科衛生士取得のために必要な「健康と歯肉炎の定義」から始まり、「歯周治療における知覚過敏の対応」ならびに「根面カリエス予防」を実験的な検証と文献的な考察を交えた講演し、明日からの臨床へ生かせる内容であった。「SPT（継続管理）」に関しては、日本歯周病学会認定歯科衛生士取得時の注意点を踏まえた講義となった。

「歯周病予防で歯と身体の健康を守ろう！～歯周病と全身疾患の関わり～」では、医療面接の重要性を通し、糖尿病、心疾患、妊娠期の歯肉炎と早産・低体重児出産、関節リウマチ、誤嚥性肺炎、認知症などの全身と歯周病の関連について症例を提示しながら講義を行った。日本の高齢化とフレイルおよびプレフレイルとも言われている口腔機能低下など多岐にわたる内容であった。



図2 ケースプレゼンテーションの様子

両講師の講義後、鎌田委員座長のもと、奈良県の日本歯周病学会認定歯科衛生士の上田氏によるケースプレゼンテーション「喫煙を伴う広汎型慢性歯周炎の一症例」が行われた（図2）。初診から歯周治療および禁煙指導を成功させた7年症例で、口腔衛生指導の工夫が印象的な症例であった。ディスカッションでは、大八木委員・高橋委員からのコメントや、上田氏との質疑応答で活発な意見交換が行われた。また、上田氏が勤務する歯科医院院長の河野寛二先生からも実際の臨床現場での禁煙指導への取り組み方や、咬合性外傷

への対応などについてコメントもあり、ケースプレゼンテーション・ディスカッション共に有意義な時間となった。最後に日本の歯科衛生士の就業状況、日本歯科衛生士会および日本歯周病学会への入会と認定歯科衛生士のエントリー方法について説明を行った。

11. アンケート結果について

今回の受講者数は全体で98名（現地参加11名を含む）であった。年齢層の内訳は図3に示す。

日本歯周病学会会員49名（うち歯周病学認定歯科衛生士は34名）、日本歯科衛生士会会員57名で、北海道から鹿児島県まで23都道府県歯科衛生士会所属と幅広い地域の受講者であった。また、「今後、あなたは日本歯周病学会認定歯科衛生士を取得する予定がありますか。」の質問に21名が「はい」と回答した。

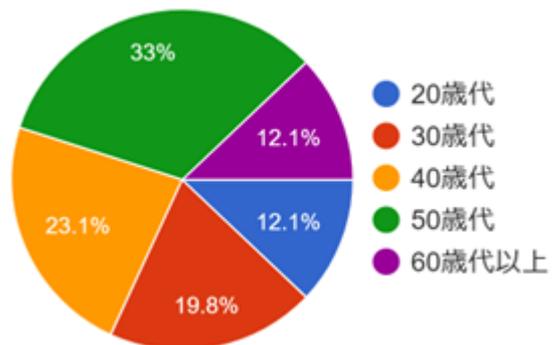


図3 受講者の年代

webでのアンケート回収率は96%と非常に高く、講演内容については全員が「参考になった」「まあまあ参考になった」と回答した（図4）。

所属学会については、日本審美歯科学会（12名）、日本口腔インプラント学会（11名）、日本臨床歯周病学会（8名）、口腔ケア学会（2名）、日本顕微鏡歯科学会（2名）および他9学会であった。

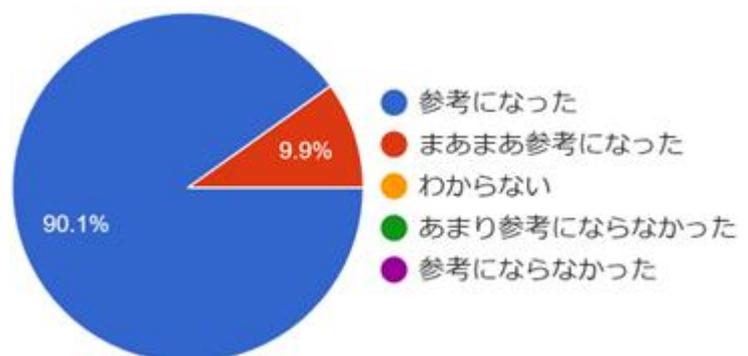


図4 本日の講演内容

12. 教育講演会を終えて

今回印象的だった感想に、「日本歯周病学会認定歯科衛生士の症例発表を実際に聞くことができよかった」「具体的な患者指導を聞き、臨床に生かして行きたい」という意見があったという点である。今後、認定歯科衛生士を取得したいと考えている受講者にとって、非常に臨床に実践的な内容であったと同時に、日々の診療での気づきに繋がったのではと感じた。

奈良県の日本歯周病学会の認定歯科衛生士数は現在9名と伺っており、その中の一人である上田氏が今回の教育講演でのケースプレゼンテーションを行った。プレゼン後のディスカッションでは、河野先生および講演者より、歯周病における歯科衛生士の重要な役割と歯科医師との役割分担によって治療効果が高くなることを受講者に伝えることができたのではないかと示唆された。

今後、歯周病に関する研修会、講演会で希望する内容については、患者への症例別ケア用具の選択や全身状態に合わせたアプローチ方法や症例を提示したデンタルエックス線の診かたやインプラント周囲炎の管理など具体的な臨床テクニックが多かった。